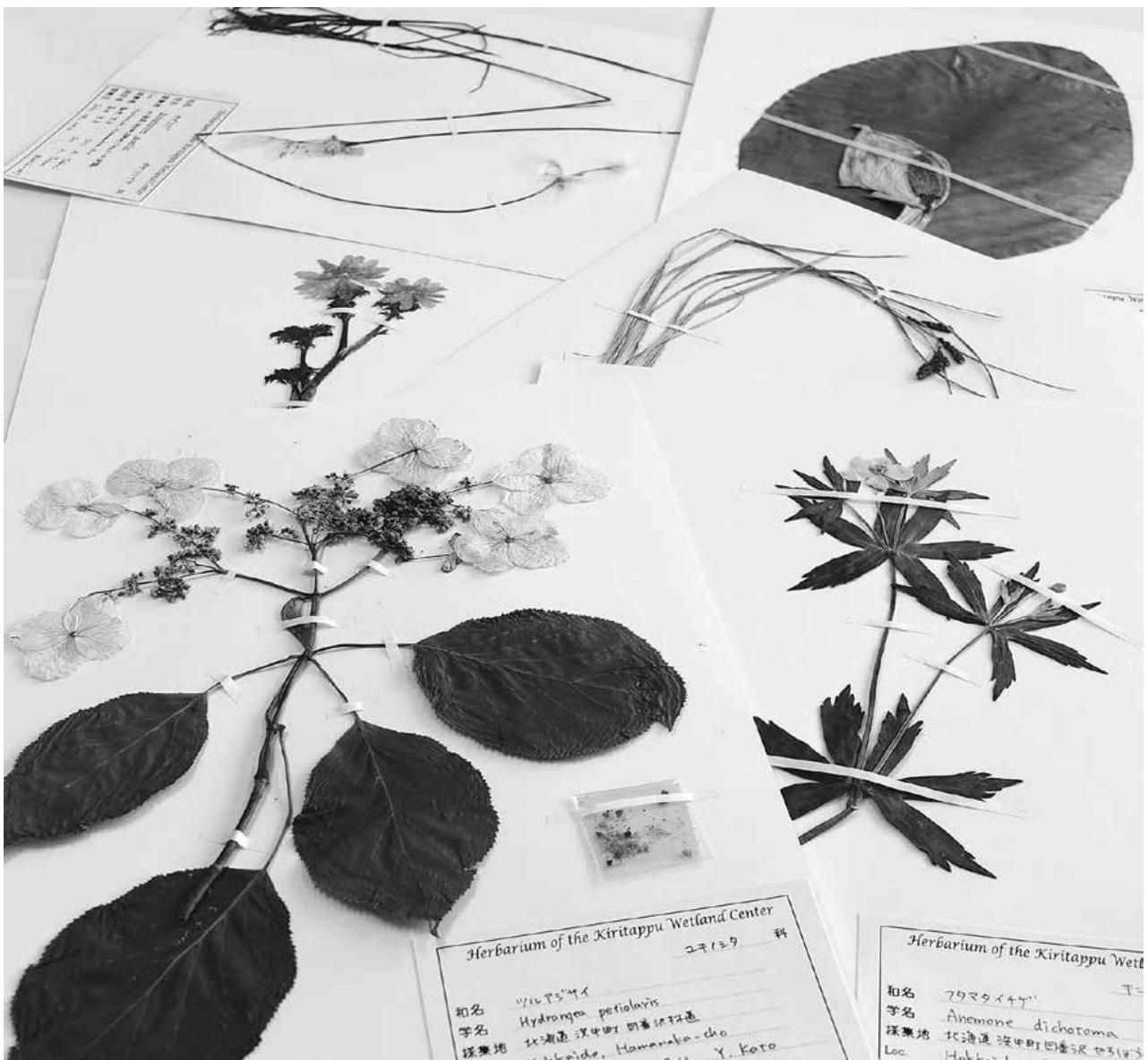


釧路市立博物館報

NO.417



釧路市立博物館の魅力

現在博物館には釧路地方の豊かな自然と、旧石器時代移降の歴史を紹介する4,000点を超える貴重な資料が展示されています。また、各分野に専門的知識を持った学芸員が、隣接する埋蔵文化財調査センターと合わせて10名勤務し、新しい資料の収集や調査研究に取り組んでいます。

建物に足を踏み入れると、釧路の自然と歴史と魅力について、非常にわかりやすく展示・説明されており、ふるさと釧路を学ぶ施設として、この上ない魅力的なミュージアムになっています。

しかし、この魅力を知らない、経験したことがない、という人が非常に多いと聞きます。とても残念なことです。中身を魅力的なものにして来館者を待つだけでなく、活動や情報をもっと積極的に発信しようという動きもあるようです。特に、遊学館・マリモ研究室・動物園・美術館などの社会教育施設と連携しての事業展開や、展示品の貸し出しのための「トランクキット」の準備等は市民の学びの充実に直結するととても素晴らしい取り組みであると思います。

小学生や中学生がふるさと釧路を学ぶ時、そこには博物館から提供された本物の教材が準備されている。説明するためのゲストティーチャーも派遣されている。実現できれば本当にわくわくするような光景ではないでしょうか。

また、複数の社会教育施設が相互に連携してイベントを共同開催するシステムが定着すると内容は一層充実し、親子連れの参加者が会場に溢れ、市民の生涯学習は益々実のあるものになり、必然

的に博物館の入館者数も増えることが期待できるものと考えます。

ここで、飛躍し過ぎる個人的な考えを2つ述べさせていただきます。

1つ目は、市内の大学等の学生に、釧路の自然や歴史について学ぶ講座を必修とし、そこに博物館が持つハード・ソフトの教育資源を提供するというものです。地元の学生にとっても、他の地域から来て学んでいる学生にとっても、学生時代を過ごした釧路の街の魅力を体験を通して学び、より深く理解して社会に巣立つことは、釧路の将来にとって大変意義深いものであると思います。きっと釧路の魅力が若者達の手によって今まで以上に全国に発信されることになるでしょう。

2つ目は、近年急増している外国人観光客に対するホスピタリティについてです。爆買いで有名な中国人観光客も、2回目以降のリピーターは日本の素晴らしい伝統や文化に直接触れる体験を求めていると聞きます。きっと地方都市の博物館を訪れる観光客も今後増えることが予想されます。他都市に先駆けて、そのための準備をしておくことも必要ではないでしょうか。実は20年前、大英博物館を訪問する機会を与えてもらいました。日本語による音声案内のトランシーバーを耳に当て、ロゼッタストーンについての説明を聞いた時の感動を忘れることが出来ません。

今年創立80周年を迎える「釧路市立博物館」が、100周年に向け益々発展していくことを心から願っています。
教育委員長 山口 隆

3月号目次

釧路市立博物館の魅力	山口 隆	2
約35億年分のタイムトラベル オンネトーの鉄・マンガン生成と微生物	三田 直樹	3
太平洋炭砒「ヤマ」の氏神さんとその行方	佐藤富喜雄	7
80周年記念・「釧路フォント」の博物館ロゴ完成	石川 孝織	10
岡崎由夫先生と釧路市立博物館	石川 朗	10
チャランケチャシ	貞國 利夫	11
トピック 釧路市知人浜にシャチ幼体が漂着	貞國 利夫	11
博物館ニュース		12



〈表紙写真〉 企画展「未来へ残す私たちの記録 ハーバリウム霧多布」より。「ハーバリウム霧多布」は霧多布湿原センターが2011年から行っている、浜中町に700種あると言われている植物を調査して標本を作る取り組みで、博物館は2013年から参画しています。植物標本は適切に管理すれば100年以上保存可能で、現在の自然の記録を未来へ残すことができるのです。この活動で収集した標本の一部は博物館にも収蔵されます。(加藤ゆき恵)

釧路市立博物館館報 No.417 2016年3月号 2016年(平成28年)3月31日発行

発行 釧路市立博物館 〒085-0822 釧路市春湖台1-7

☎ 0154-41-5809(博物館)・43-0739(埋蔵文化財調査センター)/ FAX 0154-42-6000

釧路市立博物館Web <http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/>

museum@city.kushiro.lg.jp(博物館) maibun@city.kushiro.lg.jp(埋蔵文化財調査センター)

発行責任者 白幡 敏弘 編集 石川 孝織・土屋 慶丞・貞國 利夫 印刷 株藤プリント